



東京工業大学新附属図書館

2011年秋全面開館予定



## 東京工業大学附属図書館 新築工事について

東京工業大学では 2009 年 6 月より「附属図書館大岡山本館」の建て替え工事を行っています。新図書館は、大岡山キャンパスの正門から本館前プロムナードへ繋がる、大岡山キャンパスの中心に建てられます。新しい時代の先導的電子図書館への移行を視野に入れ、便利で快適な学習・調査機能とレファレンス機能を充実し、本学の研究成果を広く世界に発信する機能を整備します。2011 年秋の開館に向け、現在工事が進行中です。東工大の新しいシンボルとしての附属図書館の完成を楽しみにお待ちしております。

### 東京工業大学附属図書館の将来構想

附属図書館では、将来構想として次の 2 点を最重点項目としています。

#### 1. 先導的電子図書館への移行

「最高の理工系大学」を支えるため、研究者・学生が必要とする情報を、幅広く自由に利用できる環境を整える。  
学内の研究成果を広く世界に発信する。

#### 2. 便利で快適な学習・調査空間の提供とレファレンス機能の充実

大岡山の新図書館を中心に、すずかけ台、田町の分館と一体となって、学習支援機能、レファレンス機能を充実し、人と情報が出会う図書館を実現する。

上記の構想実現のため、新図書館では次の機能を計画上のポイントとしました。

##### a. 学習図書館機能：

学術・参考資料へのアクセスが容易で快適な学習・調査空間の提供  
情報ナビゲータとしての図書館職員による学習支援  
開館時間延長を可能とするセキュリティ構成

##### b. 保存図書館機能：

様々な媒体の学術資料を効率的に保存できる工夫  
集密書架採用による所蔵図書容量の確保

##### c. リフレッシュ機能：

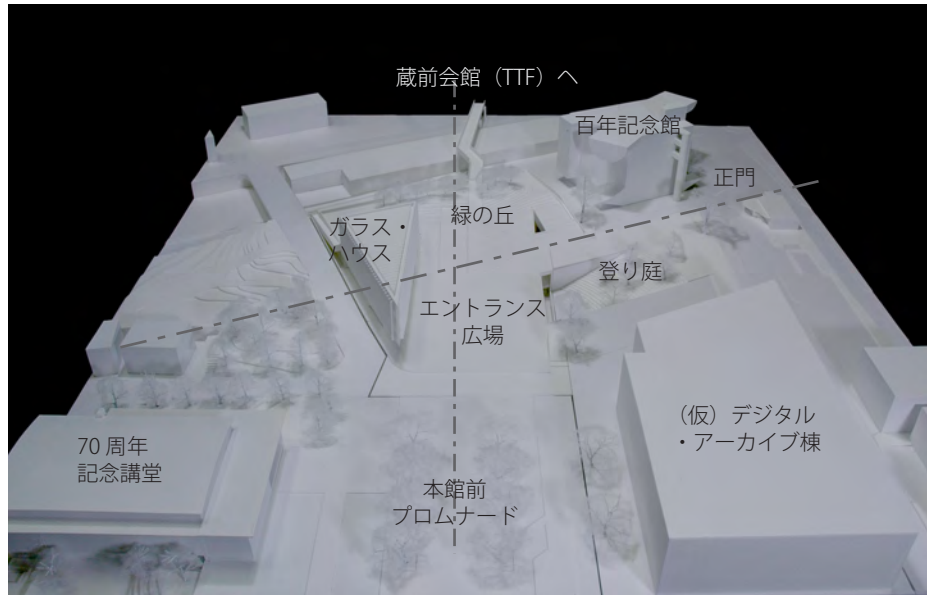
くつろげる「場」の提供、静粛を求めない区域・飲食を可とする区域の提供



## 新図書館の4つのコンセプト

図書館は大学にとって「学び」の場の中心であり、また「知の集積」の場でもあります。そのため、大学図書館は「大学の顔」として最も重要な施設のひとつであり、大岡山キャンパスの将来計画を見据えながら、規模設定や配置計画を慎重に行ないました。建築計画に際しては、図書館の将来構想・計画敷地の特性を考慮し、新図書館建築の基本となる4つのコンセプトを設定しました。

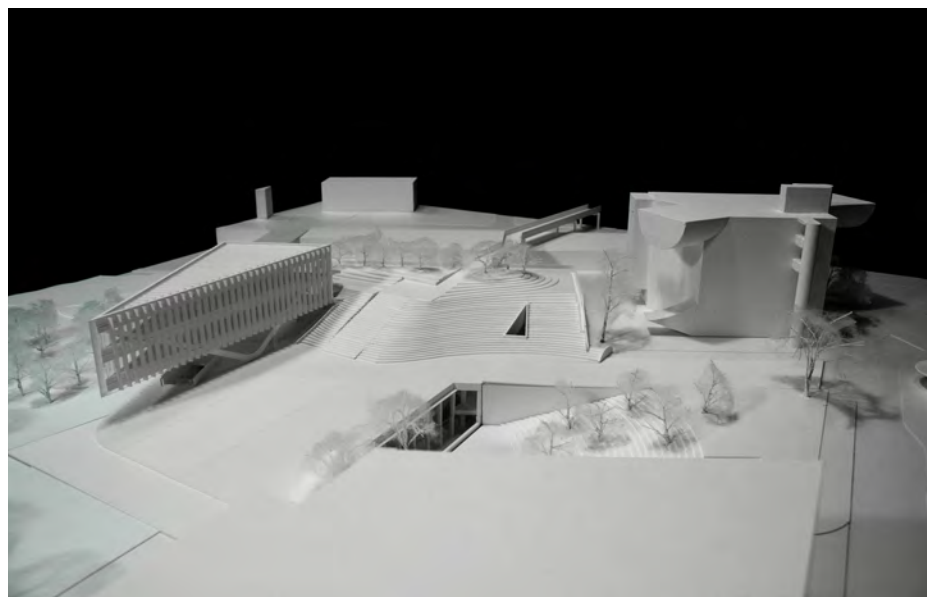
1. 大岡山キャンパスの動線の結節点となる建築
2. 緑に覆われた地下図書館
3. 地下図書館と学習棟の明快的な構成
4. 自然光、自然通風を考慮した地下のワンルーム空間、学生のリビングルーム



模型写真：本館側より俯瞰

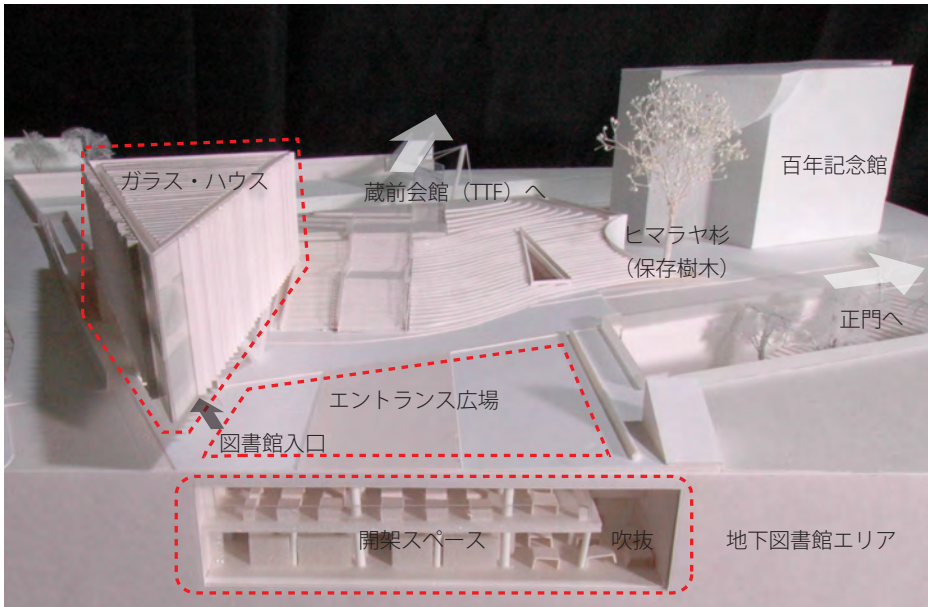
### [ 配置計画 ]

新図書館は、大岡山キャンパス計画における2本の軸線、本館からプロムナードに沿う軸線と、正門から線路に沿う軸線の交差する場所に配置しています。このエリアは大岡山キャンパスの大多数の学生・教職員が通過する場所であり、キャンパス内交通の結節点といえます。講堂、百年記念館など周囲の建物への連絡も容易であり、将来においても大学エントランスまわりの中心となります。建物の大部分を地下に計画し、キャンパスの入口の開放感を損なうことなく、正門からの主動線となる広場を確保しました。正門正面にはアイストップとなる三角形のガラス・ハウスを配置し、東工大の新たな名所となることを期待します。

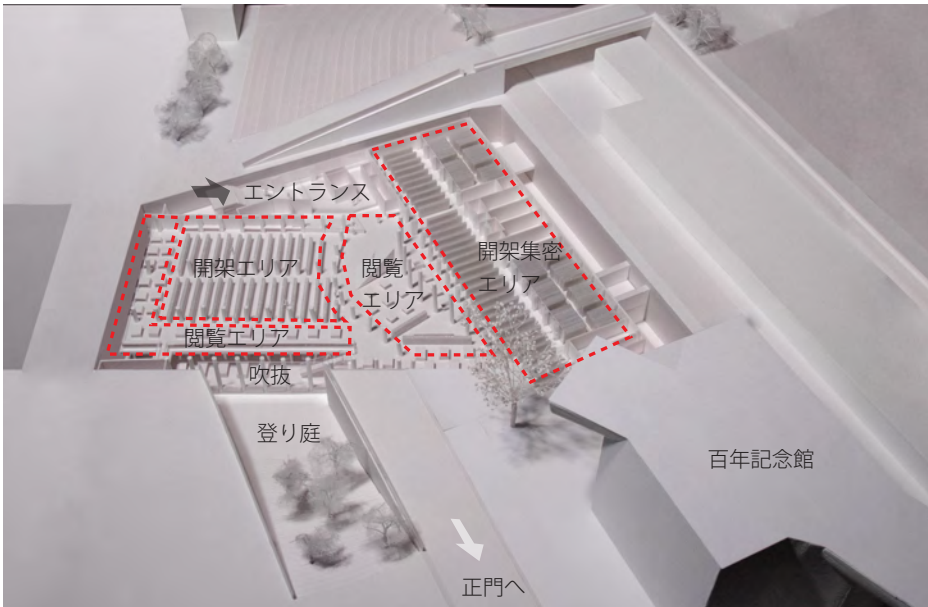


模型写真：現図書館側より俯瞰

[ 建物の基本構成 ]



模型写真：断面を本館側より見る



地下図書館エリア模型写真：正門側より俯瞰

新図書館は、地下図書館本体と地上のガラス・ハウスのふたつの建築で構成されます。気温や湿度変化の少ない地下空間は図書の保存に適しており、閲覧室としても静かで落ち着きがあるスペースとなります。地下の図書館本体へはガラス・ハウスの庇の下からアプローチし、閲覧室は地下2フロアとなります。3階建てのガラス・ハウスは学生が自由に出入りできる学習スペースとなります。

地下図書館本体は中央の閲覧スペースを挟み、北側を開架集密エリア、南側を開架エリアとしています。2つのフロアは大きな吹抜けによって一体化され、広がりのある空間構成となります。特に地下1階の書架は4段と低く設定され、部屋全体が見渡せるスペースとなります。吹抜けまわり、ドライエリアのまわりを閲覧エリアとし、学生が長い時間を過ごすスペースには自然光や自然通風を得られる計画となっています。



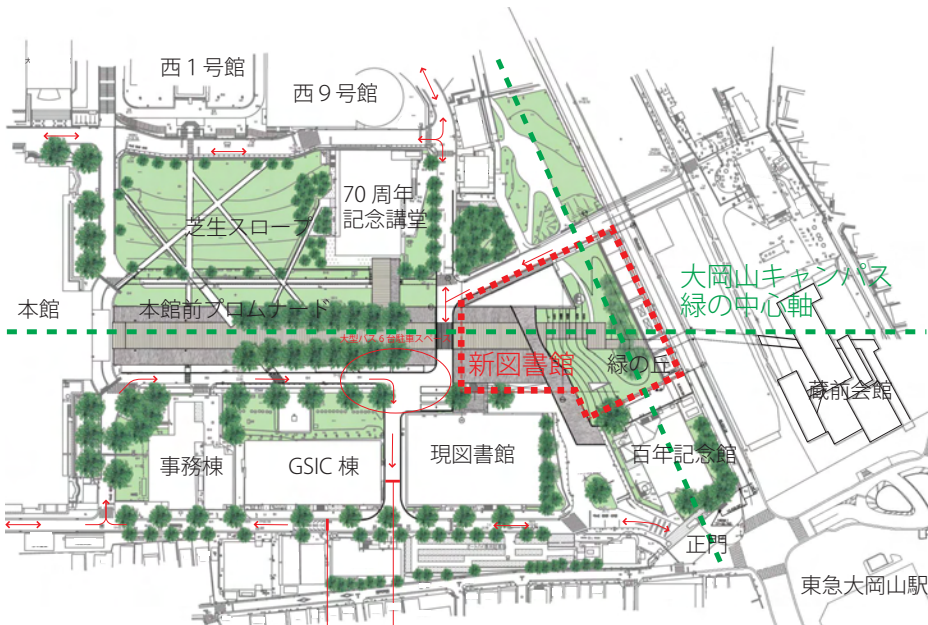
工事風景：ガラス・ハウス組立て

[ 緑に覆われた地下図書館 ]

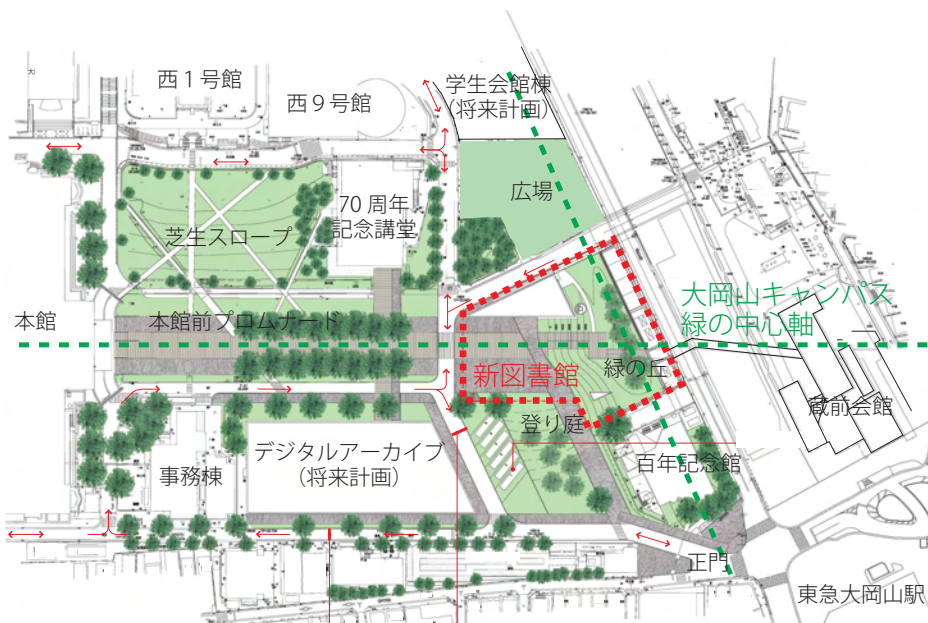


完成イメージ：正門側より俯瞰

新図書館は、ほとんどのボリュームが地下に計画され、地上はエントランス広場と緑の丘となります。緑の丘は南に面した芝生斜面であり、本館前プロムナードと連続するように桜が植えられ、足下には周辺地域の植生を活かす野草が植えられます。西側の芝生スロープと共に学生が集う東工大の新しい名所となることを期待します。また、計画敷地に植わっていたヒマラヤ杉の1本を保存樹木とし、根元を保護するなど今後もシンボルツリーとして残せるような計画としました。



正門一本館前エリア配置図：新図書館完成時



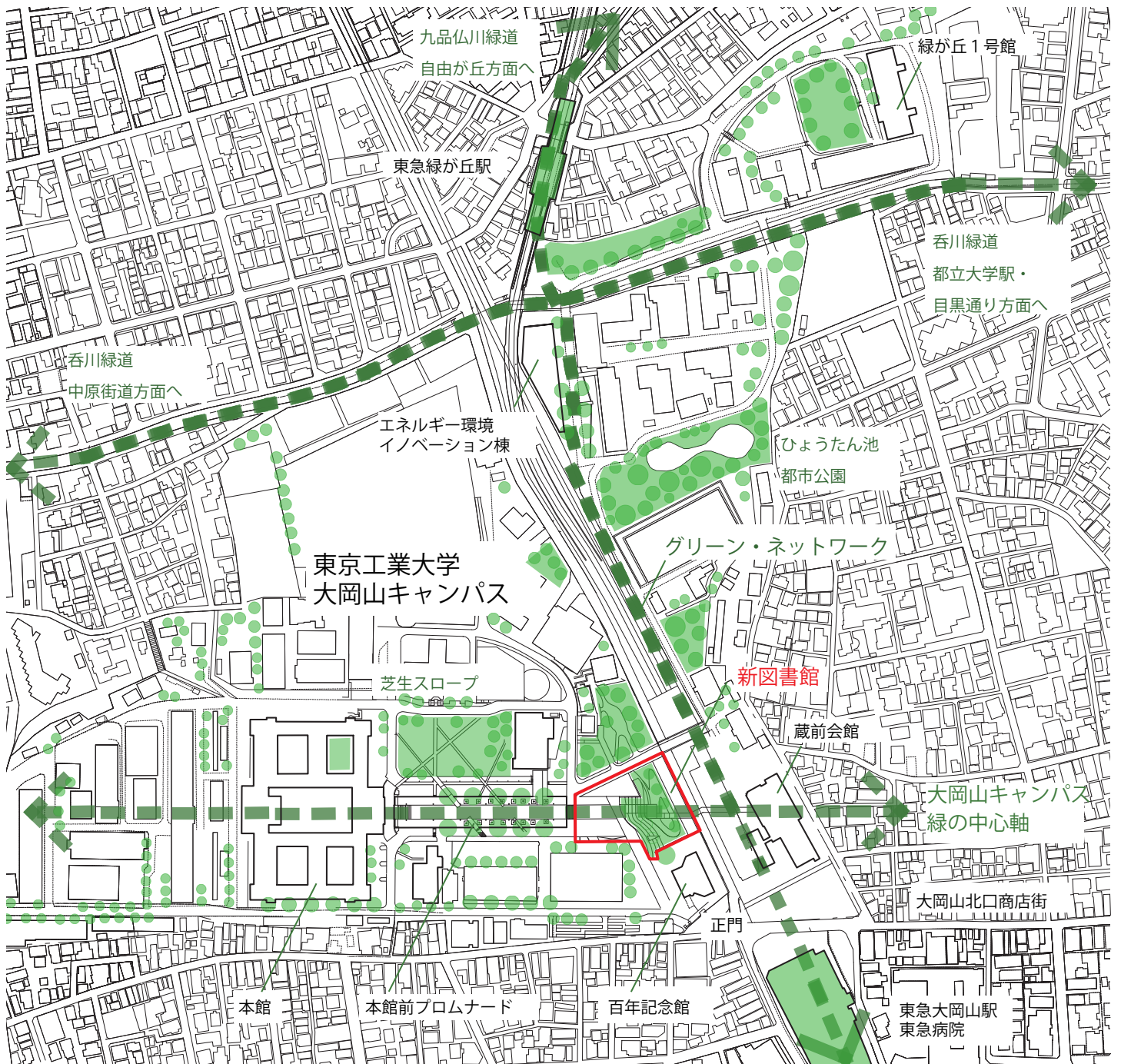
正門一本館前エリア配置図：将来計画

[ 緑豊かなキャンパスの将来像 ]



本学の大岡山キャンパス計画において、緑豊かなキャンパスをめざし、大学内と周辺地域の緑地をネットワーク化する「グリーン・ネットワーク」を構想しています。新図書館の緑の丘はこのネットワークの中心となる場所に配置されています。

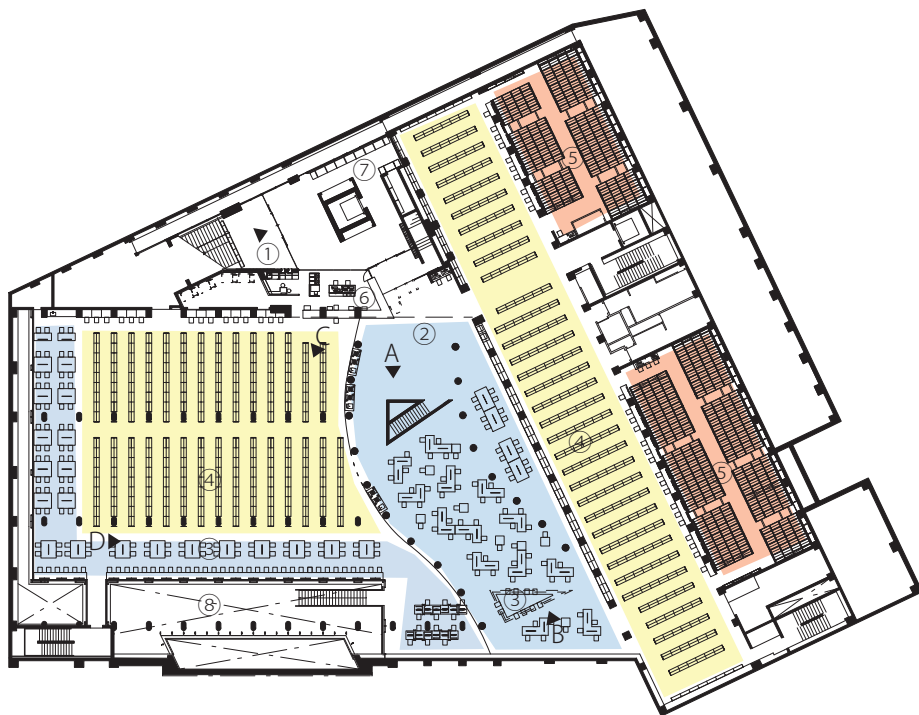
大岡山キャンパス本館周辺は、本館をはじめ、70周年記念講堂、百年記念館、事務棟など、建築史の上でも重要な建築が建っています。また、現在、本館からの軸線上、東急線を越えた駅正面には2009年5月にオープンした蔵前会館(Tokyo Tech Front)があり、将来ブリッジによってプロムナードのデッキにつながる予定です。



[フロア構成]

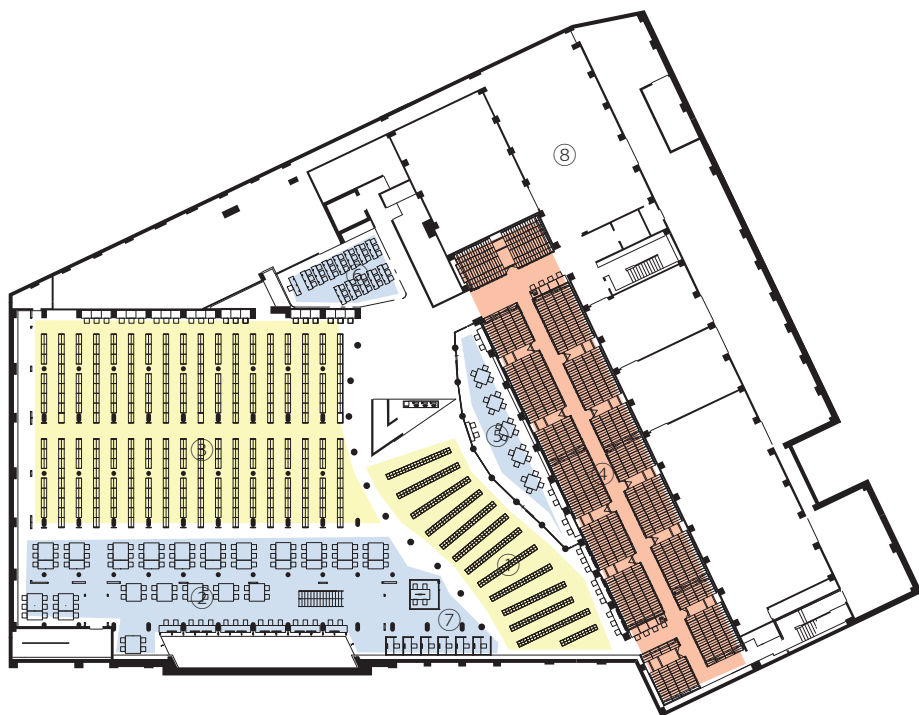
■地下1階：図書館エリア

- ① エントランス
- ② ロビー
- ③ 閲覧スペース
- ④ 開架スペース
- ⑤ 開架集密スペース
- ⑥ 受付カウンター
- ⑦ 新聞コーナー
- ⑧ 吹抜け

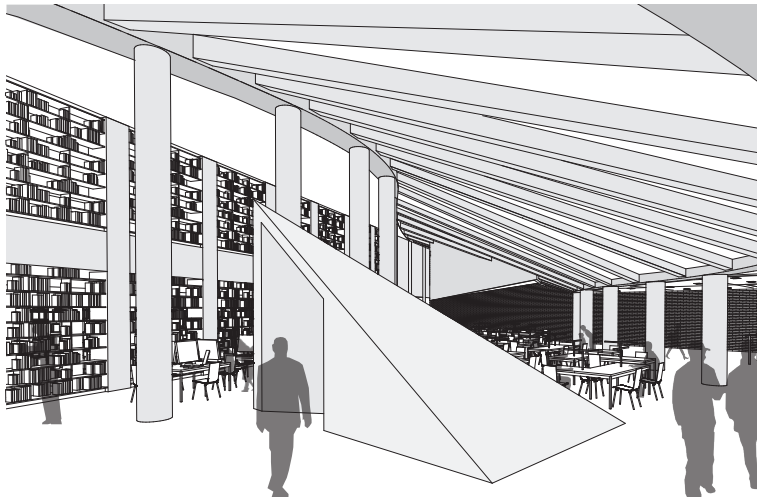


■地下2階：図書館エリア

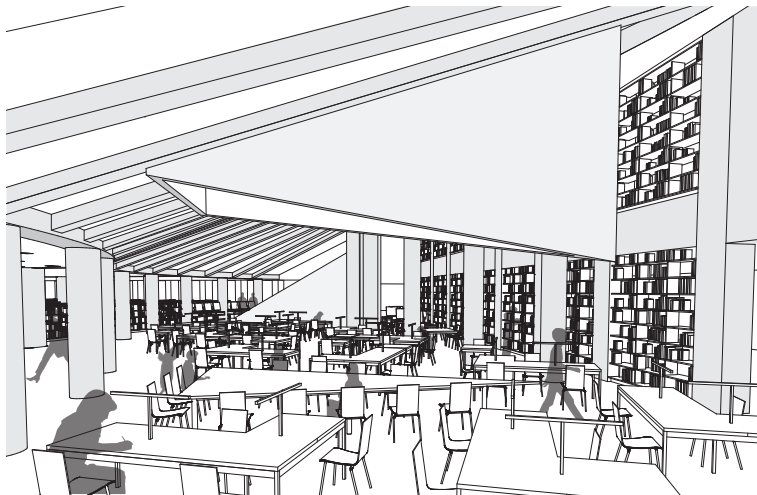
- ① 新着雑誌スペース
- ② 閲覧スペース
- ③ 開架スペース
- ④ 開架集密スペース
- ⑤ リフレッシュスペース
- ⑥ レクチャースペース
- ⑦ 教員用ブース
- ⑧ 機械室







A: ロビーから閲覧スペースを見る



B: 閲覧スペースからロビー方向を見る



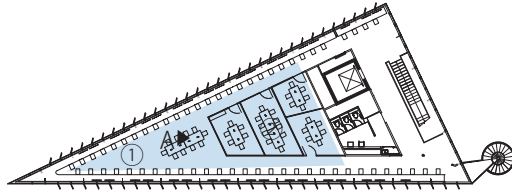
C: 受付から 開架スペースを見る



D: 開架スペースから吹抜けを見る

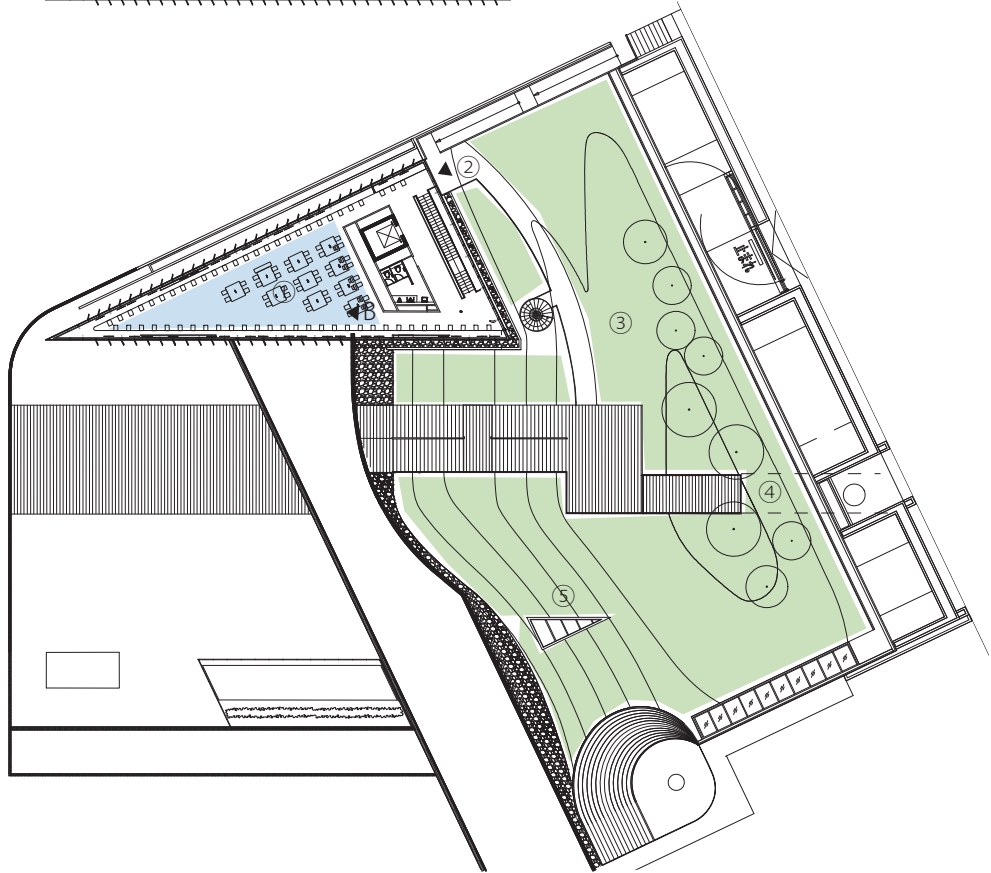
■ 3階：学習エリア

- ①学習スペース
- ②グループ学習室



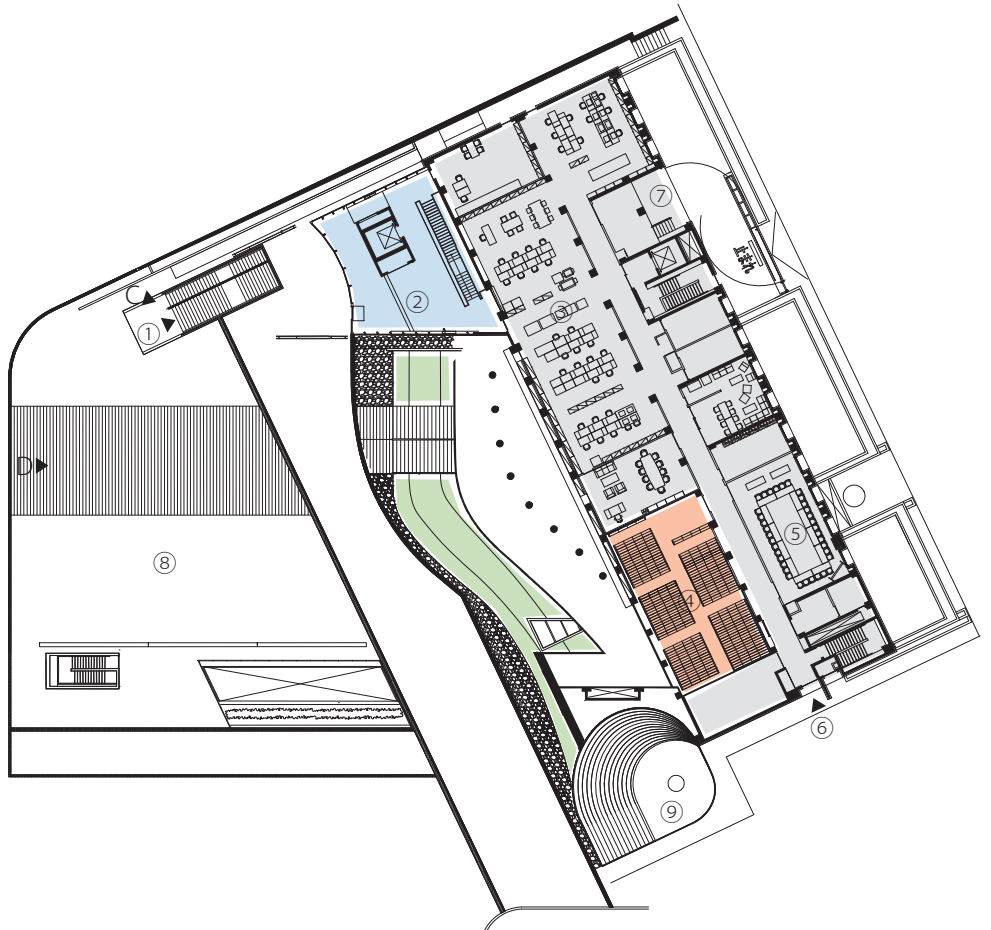
■ 2階：学習エリア

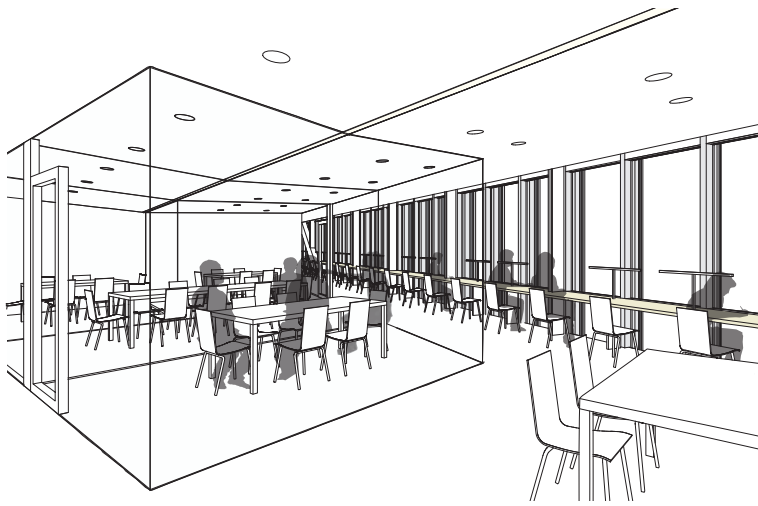
- ①学習スペース
- ②2階エントランス
- ③緑の丘
- ④蔵前会館連絡ブリッジ
- ⑤トップライト



■ 1階：事務室エリア

- ①地下図書館エントランス
- ②ロビー
- ③事務室
- ④書庫
- ⑤会議室
- ⑥職員入口
- ⑦搬入口
- ⑧エントランス広場
- ⑨ヒマラヤ杉（保存樹木）

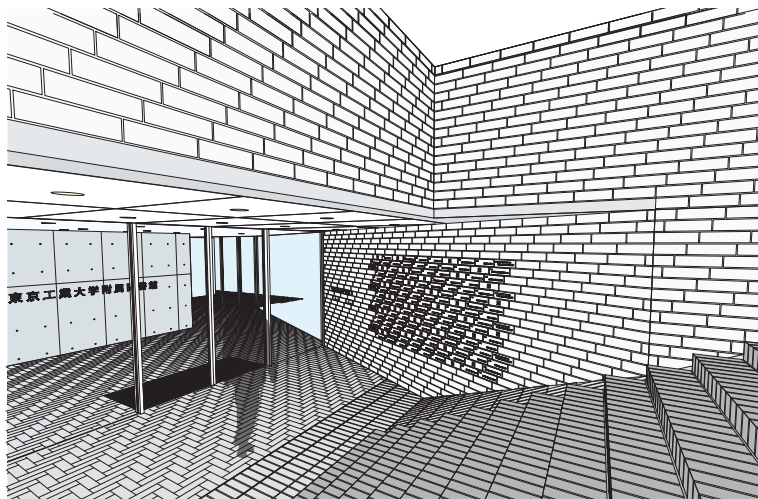




A: 3階学習スペースのグループ学習室



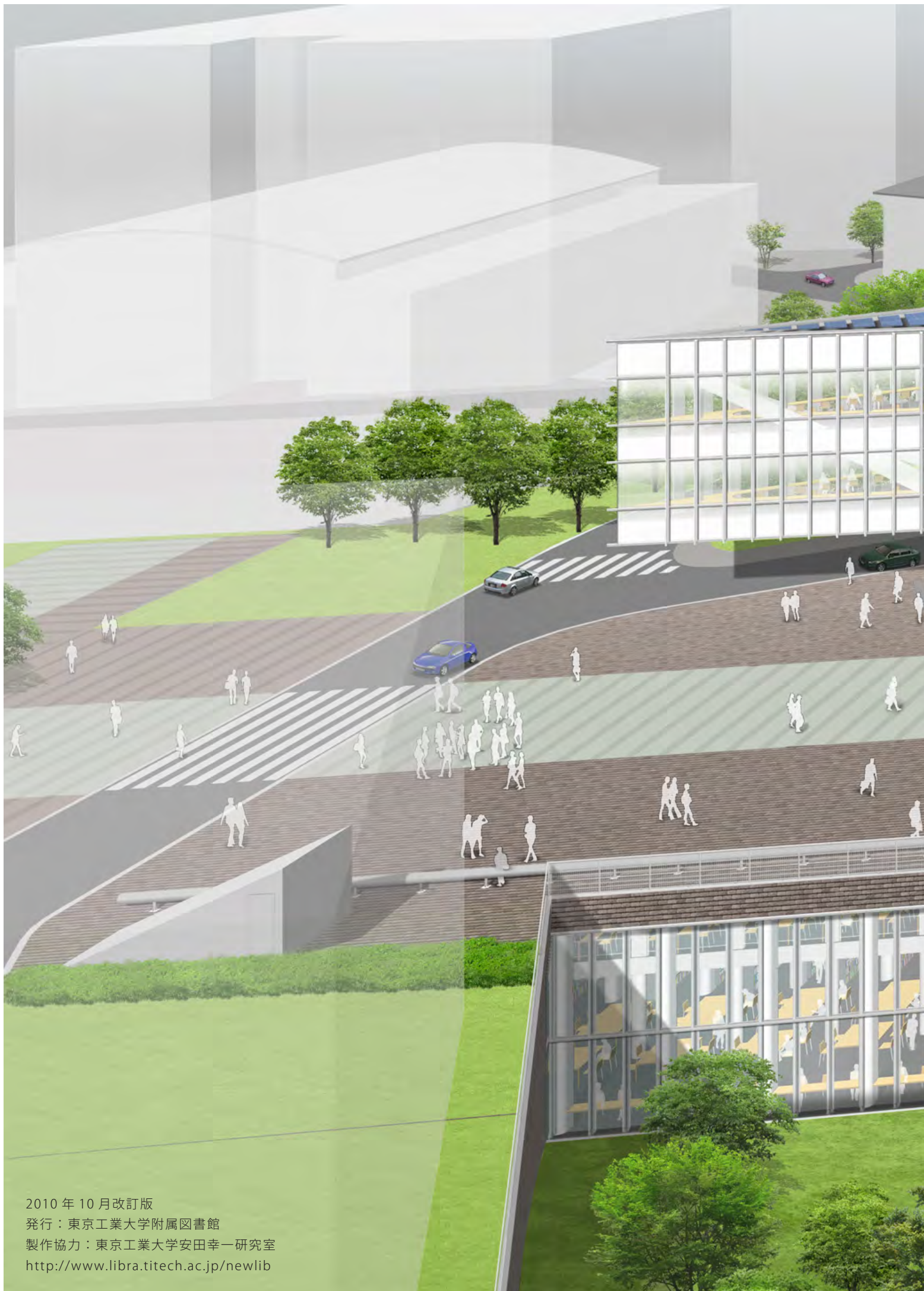
B: 2階学習スペース窓際を見る



C: 地下図書館エントランスまわり



D: エントランス広場から緑の丘を見る



2010年10月改訂版

発行：東京工業大学附属図書館

製作協力：東京工業大学安田幸一研究室

<http://www.libra.titech.ac.jp/newlib>